

古典A 伊勢物語 あぢれ心① 唱和用

みんなに根を名をせし、本文を認めるものにしよう。

本文	現代語訳
拙、男、片田舎に住みけり。	拙、男が、片田舎に住んでた。
男、「留仕くつじ。」とて、	男が、「(都へ)留仕えをくつじ。」と語つて、
別れ惜しみし行まけるもあじ、	別れを惜しんで出かけて行ったけれども、
三年来たのければ、	三年、帰って来なかったのだ。
待ちわびたりけるじ、	待ちきれなかったことに
いとねんじろに言ひける人じ、	とても熱心に語り留めておいた人じ、
「今夜あはむ。」	「今夜結婚しよしよう。」
と契りたりけるじ、	と約束してしまったその日じ、
この男来たりけり。	この男が帰って来た。
「この口開け給く。」	「この口を開けてください。」
とたたまければ、	と語つていただければとも、
開けで、	開けないで、
歌をなむよみて出だしたりける。	歌をよんで差し出した。
あらたまの年の三年を待ちわびて	三年もの間待ちきれなくて
ただ今宵こそ新枕すれ	ちょうど今夜、新枕をかますのですよ
と語ひ出だしたりければ、	とよんで差し出したという、

古典A 伊勢物語 あぢきね② 唱和用

みんなで声を合わせて、本文を認めるようにしよう。

本文	現代語訳
あぢきねまら観写年を経て	長年にわたって
わがせしがごとくはしみせよ	私が出たように、新たな夫を愛さない。
と言ひて、いなおとしければ、	と行って、立ち去らなうとしたので、
女、	女は、
あぢきね引けど引かねど	あなたが私の心を引いても引かなくても
昔より心は君に寄りにしものを	昔から私の心はあなたに寄り添っていたのに
と言ひければ、	と詠んだけれども、
男帰りにけり。	男は帰ってしまった。
女、いと悲しくて、	女は、とても悲しくて、
しるに立ちて追ひ行けど、	あつち立つて追いかけて行ったが、
え追ひつかで、	追いつけなくて、
清水のある所に伏しにけり。	清水がある所にうつ伏しってしまった。
そじなりける君に、	そこにあった君に、
指の血して書まつけける。	指から流れる血で書まつけた歌。
相思はで離れぬる人をとどめかね	思いが通はず離れてしまった人を引き止められずに
わが身は今ぞ消え果てぬる	私の身は今にも消え果ててしまいそうです
と書きて、	と書いて、
そじに伏たつらになりけり。	その場で命が絶えてしまった。